

## 谷地の風物誌

和知隆作

那須連山のふもとに那須甲子高原が展開されている。この高原地帯から南東の方向を見おろすと、遙か遠方に国鉄東北新幹線が望見される。壮大なながめである。

赤面山スキー場や国立那須甲子少年自然の家の周辺一帯は、世界第二次大戦前から敗戦に至るまで、旧陸軍の軍馬補充部と国立種馬所の用地であった。主として放牧・採草・飼料栽培の場であった。

更に北方には旧陸軍の砲兵実弾射撃場があった。又南方には那須温泉・那須御用邸・那須牧場等がある。

今は旧陸軍演習場にかわって自衛隊の演習場・ゴルフ場・スキー場がある。

那須高原は軽鬆な火山灰土で覆われている。強い酸性土壌でやせ地である。各所に柏の群落が見られる。

風蝕が甚だしいので軍馬補充部時代には壮大な防風林が植林されていた。

今もそのあとがわずかに残っている。

以上は白河市の西方、西郷村の一部の概観である。

この高原地帯の一面に生れ育ち徴兵検査まで生家の農業にたづさわって来た。

ソ連から復員後も此処で開拓生活8年を過した。自給自足の生活であった。

前述のようにして生活して来たので当地の湿地植物や水生植物は未だに印象に残っている。

農家では谷地(湿地)沼・沢・湧水のあるようなところ・北向きの山ずそ・陰湿地は作物も作られなければ植林もできなかったのでふり向きもなかった。

こんなわけで湿地植物や水生植物の生えるようなところへは余り用がなかった。然し屋根をふくためのよし、みをつくるためのすげは貴重なもので、湿地に依存しなくてはならなかった。

この他に当地の湿地や沢・清水の湧出するほとりを思いだすままに羅列してみよう。

1.田土ヶ入谷地 山あいに入りこんだ谷地でよし、すげ等が大半であった。まむしがいた。上空にはとびがよく飛んでいた。今は殆んど開拓されてしまった。

2.同じく田土ヶ入谷地下流の方。すげ・よしが多く上空にとびは昔と共通している。この外にみづばしょう・

ざせんそう・みづとんぼが生えていた。今もみづばしょうは生えている。

3.熊倉谷地 ここは広い。なかほどには谷地坊主がたくさんあった。みづがしわ・さぎそうもあった。又他方にはしょうじょうばかま(別名雨降り花)の群落もあった。山ずその方にはのはんのき・うめもどき・いそのき・くろうめもどき・れんげつつじ・のりうつぎ・ずみ等もあった。けりやおおじしぎも来ていた。

近くには湿地があつて田面にはひるむしろがいっぱい生えていた。一面に水酸化第二鉄で赤かった。いもりもいた。よくこのあたりでさかなとりをした。

その他白河市周辺の南湖・大池と見渡すところほね・ひし・ひつじぐさ・みずごけ・がま・い・てんつき・いぬのひげ・さくらそう・かやつりぐさ・あぶらがや・おもだか等たくさん見られた。

今になって見るとなつかしい限りだ。湿地植物ばかりでなく高原地帯には普通にどこにでも見られたまつむしそう・あづまぎく・かせんそう・ききょう・やまゆり・さわぎきょう・きんらん・はたるぶくろ・ぎぼうし・なでしこ・おきなぐさ・おみなえし・ときそう・もじずり・われもこう・まつむしそう等々が殆んど姿を消してしまった。

同時にほととぎす・かっこう・よたか・ごいさぎ・いかる・あかげら・あおげら等も少なくなった。更にきりぎりす・せみ等もいなくなった。

川のきれいな流れもなくなった。

とに角昔のような湿地や沼、沢がなくなってそれにふつりする鳥虫草木が顔を出さなくなったことは何ともしびしい限りだ。

子孫のためにはどんなことがあっても残してやらなければならない。

自然のないところに何にもかも生きられない。

